



こんにちは！ **げんてん** です。 2024年度版



←こちらから当社HPでも
最近の工事実施状況
をご確認いただけます。

東海第二発電所の安全性向上対策工事などの当社の取り組み状況についてお知らせします。

訪問対話活動とは？

当社は、地域の皆さまから信頼いただける東海第二発電所を目指して、原電と原電グループ会社の社員がお宅を訪問し、当社の安全に対する取り組みや発電所の近況などをご説明する訪問対話活動を定期的に行っています。

今回も昨年に引き続き、**発電所周辺(5km圏内)にお住いの皆さまのお宅を訪問**させていただきます。



安全性向上対策工事はいつまで？

防潮堤工事のうち鋼製防護壁において確認された不具合対応やその他工事の進捗を踏まえ、特定重大事故等対処施設を含めた**安全対策工事の工事終了時期を2024年9月から2026年12月に変更**しました。当社としては、引き続き審査に真摯に対応するとともに、本工程に沿って安全第一で取り組んでまいります。

40年以上運転しても大丈夫？

東海第二発電所は、従来から発電所の必要な機器や性能を維持できるよう、最新知見を反映した設備や機器に取り替える等の対策を講じています。また、取り替えができない原子炉圧力容器や原子炉格納容器などの重要施設の傷や腐食等の有無を詳しく調べる特別点検を行い、原子力規制委員会へ申請し、審査を受けた後、2018年に**2038年までの60年運転期間延長認可**を受けています。

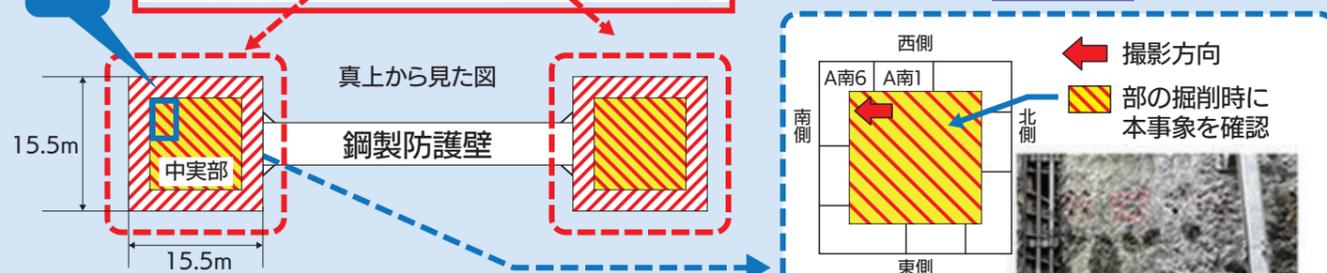
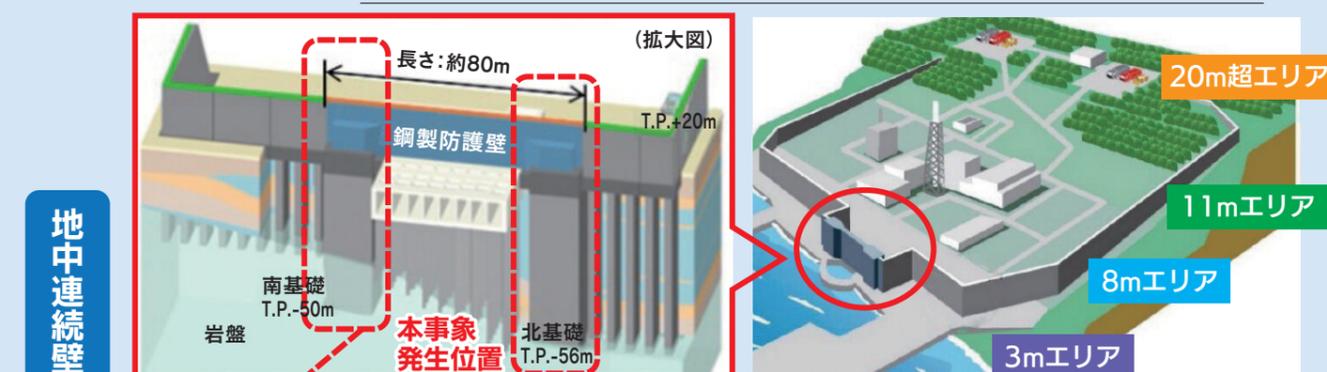
なぜ、原子力発電所が必要なのか？

政府は、将来的に二酸化炭素を排出しない太陽光発電などの再生可能エネルギーを主力電源としていく一方で、**原子力発電についても、新たな規制基準に適合し、地元のご理解を得た上で、積極的に利用していくことが必要**としています。

脱炭素社会と電力の安定供給を目指すため、GX(グリーントランスフォーメーション)脱炭素電源法が2023年5月に成立し、**原子力発電の意義が明確化**されるなど我が国の原子力発電の利用政策が大きく転換されました。

防潮堤の不具合事象とは？

防潮堤工事のうち鋼製防護壁基礎の工事において、2023年6月及び8月に地中連続壁部の壁面の一部に、**コンクリートの未充填及び鉄筋の変形等**が確認されました。

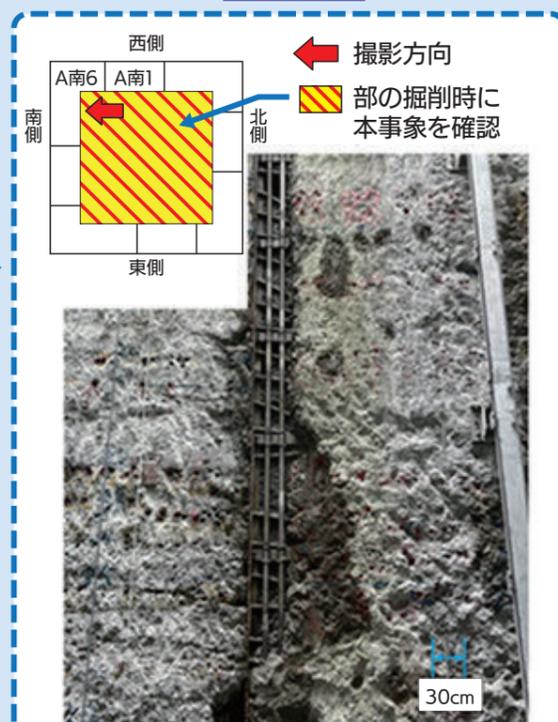


2024年8月29日、原子力規制委員会の審査会合において、以下の対応方針を説明しました。

1. 不確かさが残る地中連続壁を基礎として使用しません。
2. 周辺地盤の地盤改良や基礎の追加等の対策について、施工性も考慮した上で検討し、安全裕度を確保した構造とします。
3. 地中連続壁は残置し、耐震・耐津波評価上は保守的に地盤として扱います。
4. 残置する地中連続壁が中実部基礎等へどのような影響を及ぼすかについて評価します。

引き続き、原子力規制委員会の審査に真摯に対応しながら、実現性のある工事計画を綿密に立案していきます。

また、**不具合事象への対応状況(審査状況など)**については、**適宜皆さまへ情報公開**を行なっていきます。

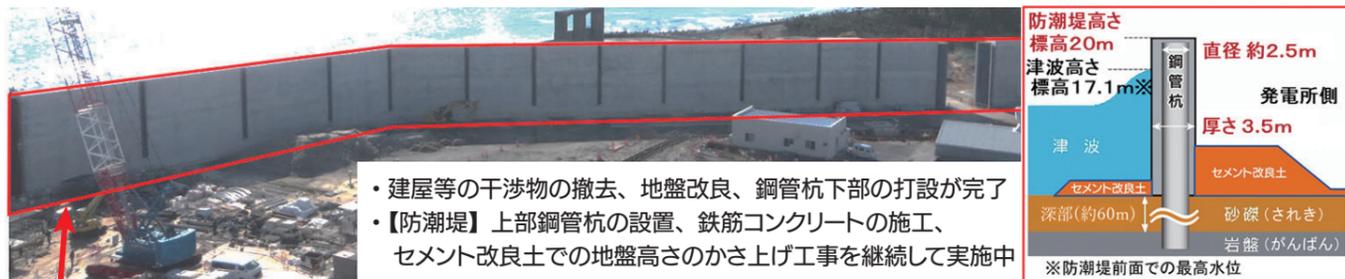


コンクリートの未充填及び鉄筋の変形等の状況(南基礎)
(写真は調査のため一部のコンクリートを除去した状態)

主な安全性向上対策工事の最新状況

当社は、東京電力(株)福島第一原子力発電所のような事故を決して起こさないという強い決意の下、国の新たな新規規制基準に適合させるため、安全最優先で安全性向上対策工事を進めております。

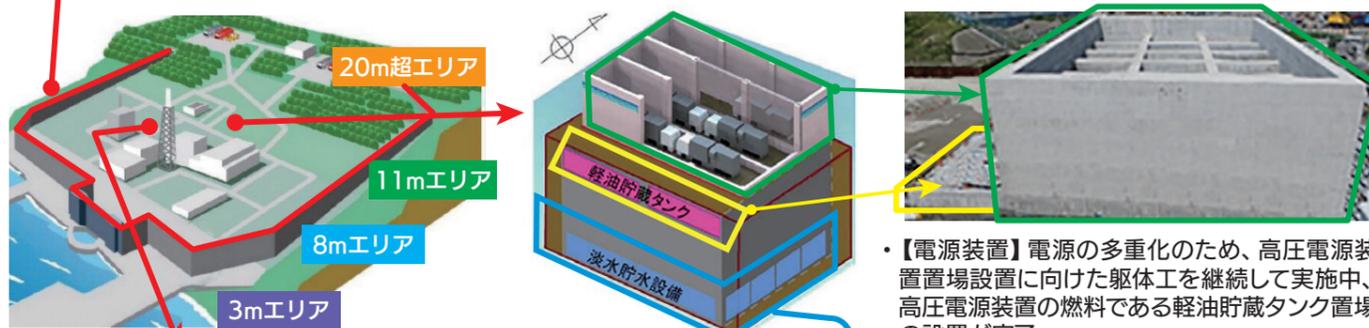
①津波から発電所を守るための工事(防潮堤の設置)



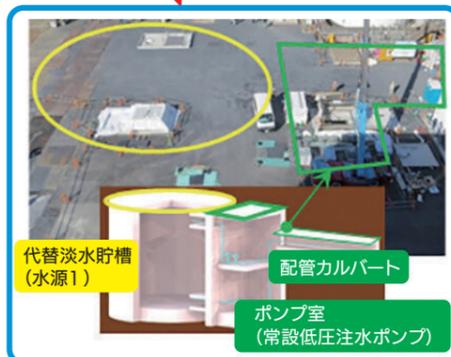
- ・建屋等の干渉物の撤去、地盤改良、鋼管杭下部の打設が完了
- ・【防潮堤】上部鋼管杭の設置、鉄筋コンクリートの施工、セメント改良土での地盤高さのかさ上げ工事を継続して実施中

②電源を絶やさないための工事(電源装置の多重化)

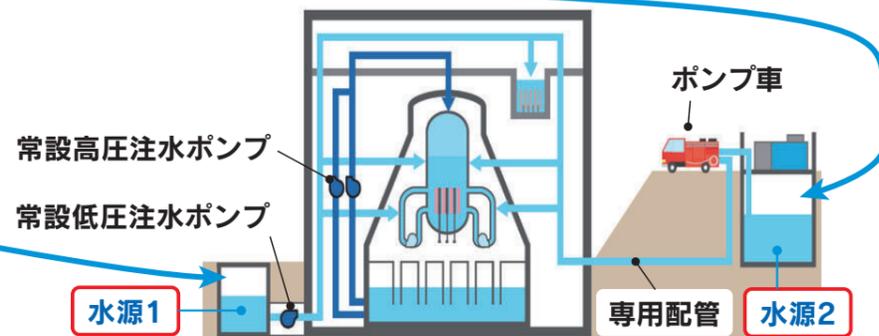
③原子炉などを冷やし続けるための工事(水源の確保)



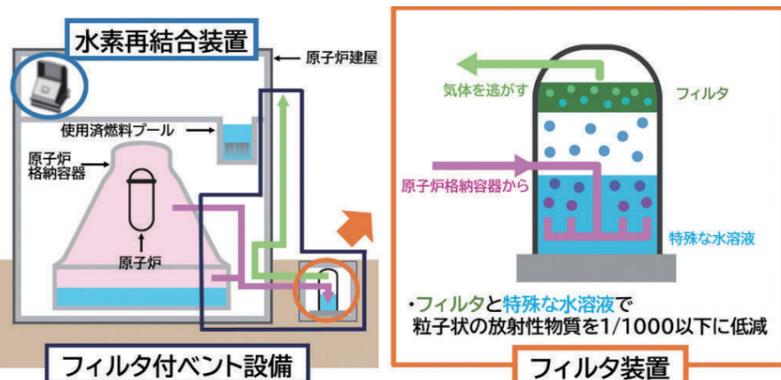
- ・【電源装置】電源の多重化のため、高圧電源装置置場設置に向けた躯体工を継続して実施中、高圧電源装置の燃料である軽油貯蔵タンク置場の設置が完了
- ・【水源2】緊急時に原子炉建屋へ水を供給するため、淡水貯水設備の躯体工を継続して実施中



- ・【水源1】代替淡水貯槽、ポンプ室、配管カルバート部の躯体工及び埋戻しが完了



④地域の環境を守るための工事(放射性物質拡散抑制対策)



- ・【水素再結合装置】触媒により水素を再結合させ、建屋内の水素濃度の上昇を抑制
- ・【フィルタ付ペント設備】圧力を逃す仕組みと、放射性物質を取り除く仕組みを兼ね備える
- ・【フィルタ装置】原子炉格納容器内の蒸気を取り込んで、放射性物質をおおよそ取り除いてから、蒸気を放出
- ・上記装置及び設備は動力源が不要

原子力防災に関する事業者の取り組み

当社は、左記の安全性向上対策工事を講じることにより、発電所周辺の皆さまが実際に避難いただくような事態はおよそ考え難いと認識しております。

そのうえで、原子力災害への万全の備えとして、発電所周辺の皆さまの避難行動等に対しても事業者としての役割が果たせるよう、日頃から自治体の方々と連携し取り組んでまいります。

【原子力災害への取り組みの一例】

- ・自治体防災訓練において発災事業者として概要説明を担当
- ・原電及び原電グループ社員による避難退避時検査実務研修の実施
- ・自治体や実動機関の職員を対象とした研修・講演会の開催
- ・当社が保有する福祉車両を用いた社員及び自治体や実動機関向け講習会の開催



自治体訓練への参加



避難退避時検査実務研修



自衛隊職員を対象とした放射線管理研修



福祉車両講習会

地域の皆さまとの交流

当社は、地域に根差した企業を目指し、東海原子力館別館を拠点とした理解活動のほか、地域社会や地域の活性化に貢献できるよう様々な活動を積極的に取り組んでいます。



対話形式による状況説明会



東海原子力館別館イベント



災害ボランティア



広報誌の発行



発電所見学会



東海まつり

LINE公式アカウントのご案内
イベント情報や、広報紙「tera channel」などをタイムリーに配信しています。「お友達登録お待ちしております」



日本原子力発電株式会社
東海事業本部